

New Yearメッセージ



ITU 事務総局長

Houlin Zhao

ITUジャーナルを通じて日本の皆様に御挨拶する機会を得ましたことを光栄に存じます。日本ITU協会は、技術標準化や無線通信分野、途上国における情報通信技術の普及というITU活動の強化・促進にとって重要なパートナーであり、世界中が結びつくように支援し、世界中で最新通信技術の便益がもたらされるように努めておられます。

2016年の出来事を振り返りますと、ITUは世界中の皆様とともに輝かしい未来に向けた確かな歩みを進めてきましたが、未だ為すべきことは数多くあります。電気通信及び情報通信技術（ICT）の国連専門機関として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」そして「国連総会での世界情報社会サミット（WSIS）成果に関する全体総括レビュー」で設定された目標の達成に効果的に貢献すべくITUの運営を進めてまいりました。

昨年5月、ITUと他の国連機関は「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に着目したWSISフォーラムをジュネーブで開催し成果を得ました。2017年も持続可能な開発目標（SDGs）の強化のためのWSIS活動に引き続き焦点を合わせてまいります。

日本の前田洋一氏^{*1}を議長とするITU電気通信標準化部門（ITU-T）レビュー委員会の成果は称賛に値するものでした。その委員会の活動のお蔭で、世界電気通信標準化総会（WTSA-16）の成果としてのスマート5Gシステムに関する野心的な目標達成に向けた有線ネットワークイノベーションに関する研究を拡大するように、ITU加盟国等がITU標準化部門に求めることができました。

また、昨年のWTSA-16では、CCITT^{*2}/ITU-Tの60周年記念を祝いました。

ITU無線通信部門（ITU-R）の活動と無線通信規則（Radio

Regulations）は、干渉のない無線通信システム運用を保証するとともに、国境を跨がるため国際間協調を必要とする希少な天然資源、電波スペクトルにすべての国が公平にアクセスできるようにしています。

昨年12月12日、無線周波数スペクトルとユビキタス無線通信のための衛星軌道利用を取り決めている重要な国際条約である無線通信規則に関して、その110周年記念を祝ったところです。

ITU電気通信開発部門（ITU-D）は、技術支援の提供、途上国市場における電気通信／ICT網、アプリケーションの創出、発展、改善のための国際協力を継続して促進してきました。ITU-Dでは2016年、規制当局のためのグローバルシンポジウム（GSR）や、世界電気通信/ICT指標シンポジウム（WTIS）を開催し成果を得ましたが、この中でもITUが発表する指標は、グローバルなビジネス関係者の間でより広く認知されるようになってきています。

ご存知のとおり、昨年、ITUテレコムワールドはバンコクで開催されました。2015年以降、このイベントを通じて、起業家企業（SME）による世界のICT市場へのアクセスを促進してきました。喜ばしいことに日本から参加の「日本電池再生」社はその成功例となりましたが、多くの起業家企業が積極的にこの機会を利用し、ITUに新たなアイデアの波をもたらしてくれました。

政府、産業界、学術界、そして日本ITU協会といった日本の多くの皆様が、こうしたすべての活動に積極的に参加いただいていることにITUとしてとても感謝しています。

2017年、ICTに関するジェンダーギャップを解消するとともに、未だICTに係るオンラインアクセスを享受できていない人々のために懸命に働くというITUの公約について、ITU加盟国等に受け入れていただけることを願っております。

日本が今後もITUのあらゆる活動に積極的な貢献をし続けていただけると確信するとともに、1879年のITU加盟以来継続されてきた日本の支援に御礼申し上げます。

最後になりますが、日本の友人の皆様、パートナー各位、そして皆様のご家族にとっても2017年が平和で素晴らしい一年となりますことを心から願っています。

*1 （一社）情報通信技術委員会（TTC）代表理事専務理事

*2 国際電信電話諮問委員会（ITU-Tの前身）